

平成26年度第6回県政参画電子アンケート
『がんに関する県民意識調査』調査結果

1 調査概要

- ・テーマ：がんに関する県民意識調査
- ・期間：平成26年7月10日(木) ～ 7月22日(火) 17:00まで
- ・対象：県政参画電子アンケート会員
- ・回答：390名/481名(81.1%) (※回答者数は重複回答者除く)

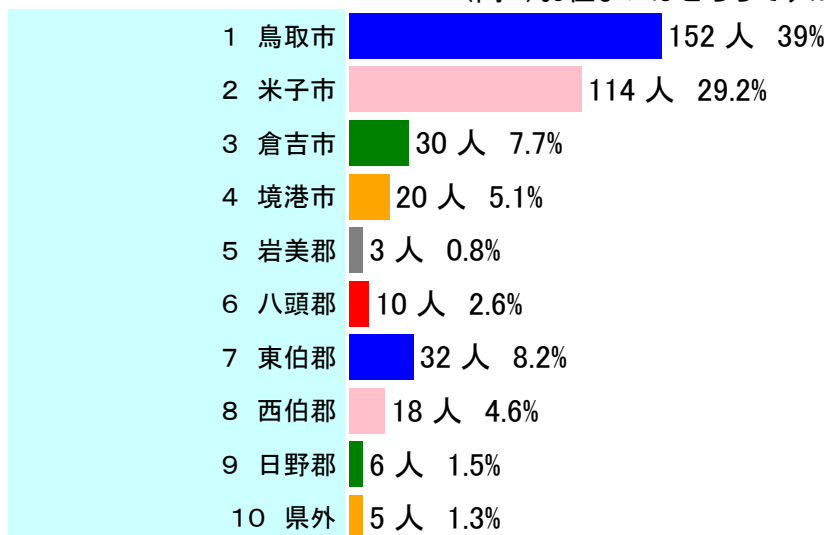
2 アンケートの調査目的

鳥取県のがん死亡率は全国平均に比べ従来より高く(悪く)推移していることから、早急かつ効果的にがん死亡率を減少させる取組を強化することが喫緊の課題となっています。

このため、県では平成20年に「鳥取県がん対策推進計画」を定めるほか、平成22年に「鳥取県がん対策推進条例」を制定するなど、県を挙げてがん対策の取組を推進しているところです。

中でも、がん検診の受診率50%を目標に掲げていますが、近年25%前後で推移しているところです。このがん検診の受診率を向上させることが、ひいてはがん死亡率の減少に繋がることから、県民の皆さまのがん検診の実態などについてお尋ねし、今後の取組の参考とさせていただきたいので御協力をお願いいたします。

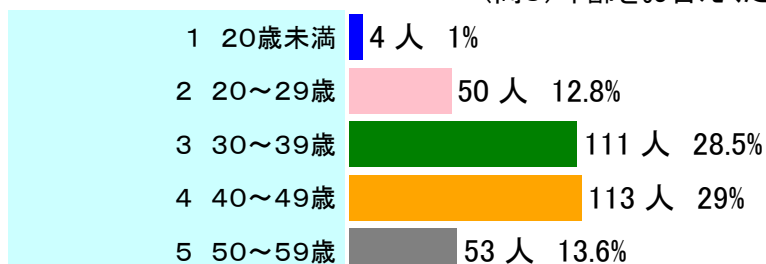
(問1)お住まいはどちらですか。



(問2)性別をお答えください。



(問3)年齢をお答えください。



6 60～69歳 42人 10.8%
7 70歳以上 17人 4.4%

(問4)職業をお答えください。

1 自営業 22人 5.6%
2 会社員 147人 37.7%
3 公務員 24人 6.2%
4 主婦 96人 24.6%
5 学生 15人 3.8%
6 その他 86人 22.1%

(問5)「がん」は、進行した段階では治療が困難であることも多く、早期発見、早期治療が望まれます。あなたは、「がん」の早期発見のために「がん検診」が必要なことをご存じですか

1 よく知っている 299人 76.7%
2 なんとなく知っている 82人 21%
3 知らない 7人 1.8%

(問6)あなたは、過去(それぞれの期間)に、がん検診及び肝炎ウイルス検査を受けたことがありますか。検診別にお答えください。

(問6-1)胃がん検診【過去1年以内】

1 ある 143人 36.7%
2 ない 240人 61.5%
3 分からない 6人 1.5%

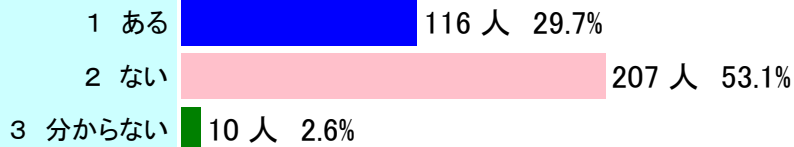
(問6-1-1)どんな検査方法ですか(当てはまるものを選んでください。)

1 バリウムによるレントゲン撮影 87人 22.3%
2 内視鏡検査 62人 15.9%

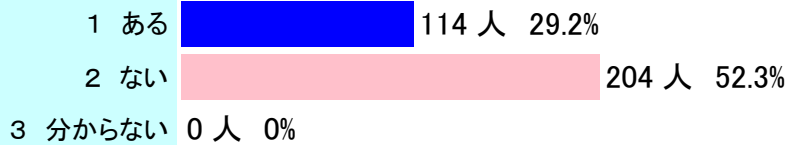
(問6-2)大腸がん検診(便潜血反応検査(検便))【過去1年以内】

1 ある 137人 35.1%
2 ない 195人 50%
3 分からない 5人 1.3%

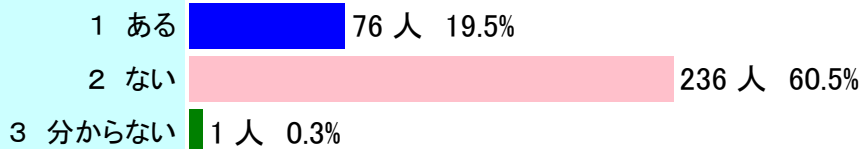
(問6-3)肺がん検診【過去1年以内】



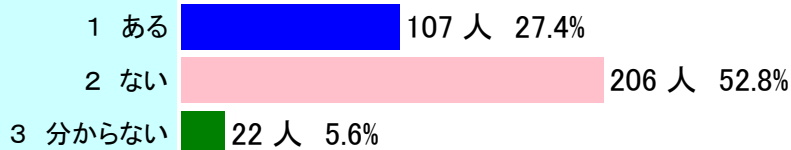
(問6-4)子宮がん検診【過去1年以内】



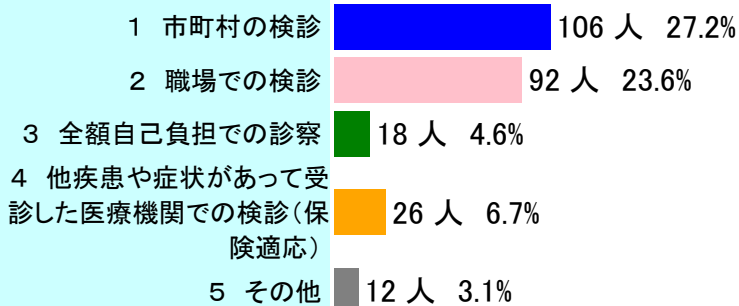
(問6-5)乳がん検診【過去2年以内】



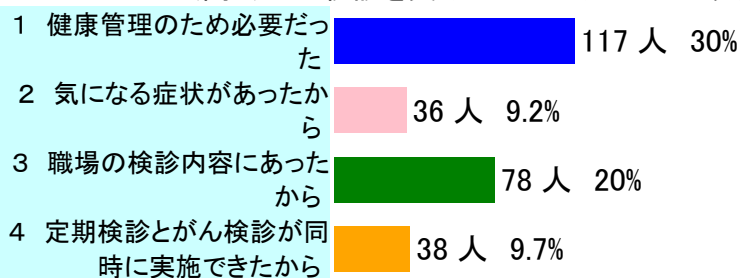
(問6-6)肝炎ウイルス検査【これまでに1度でも】

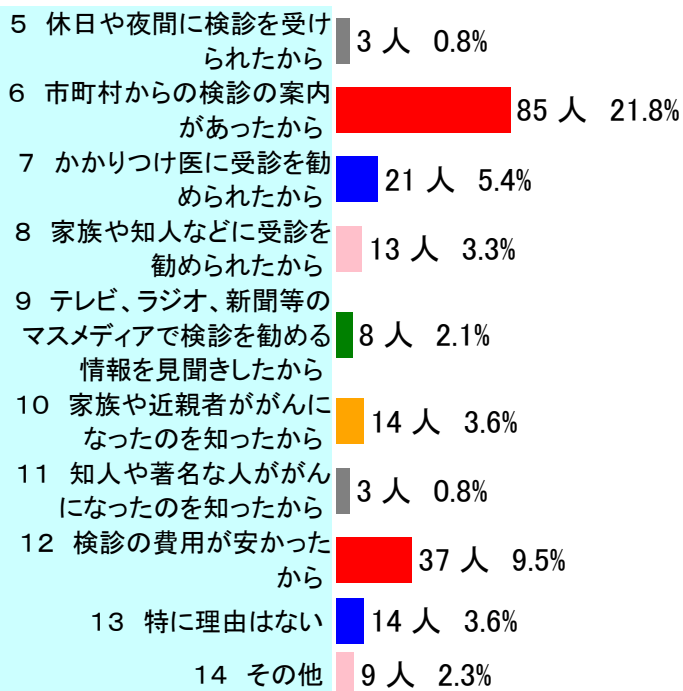


(問7)がん検診をどのような機会に受けましたか。(受診回数が最も多いもの1つを選んでください。)

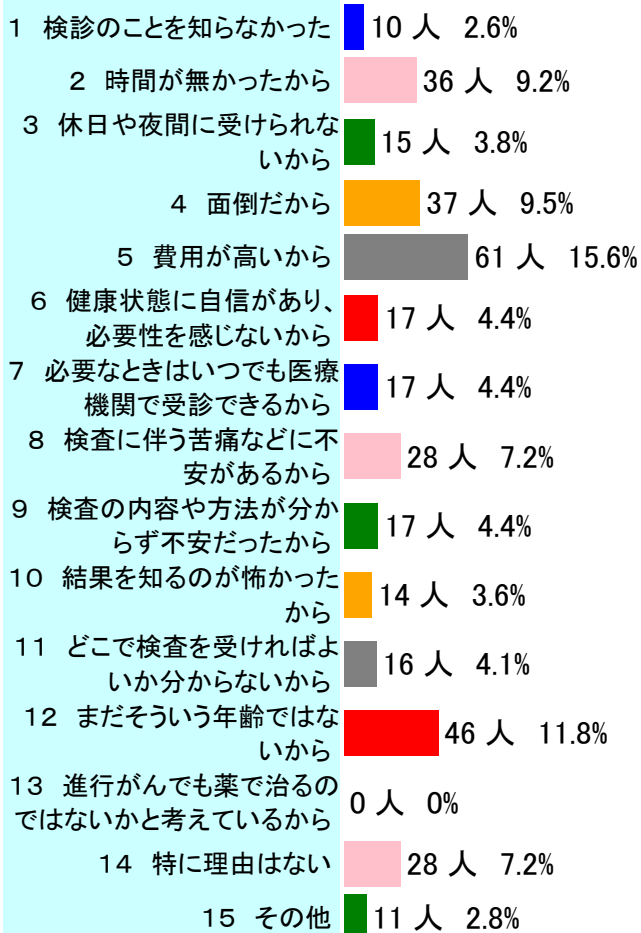


(問8)がん検診を受けたきっかけはどのようなことでしたか。【複数回答可】



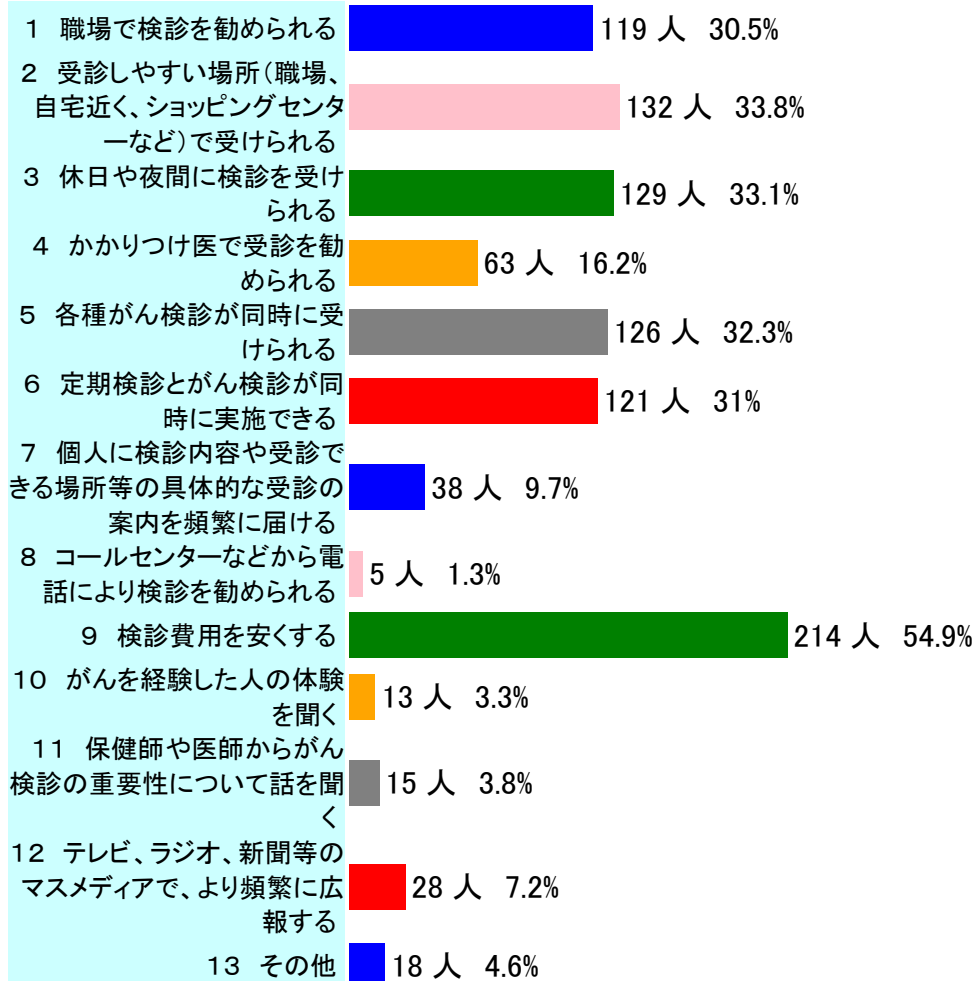


(問9) 検診を受けない理由は何ですか。【複数回答可】



(問10)今後どのような取組があれば、検診を受けたいと思われませんか。

(受診する人が増えると思われませんか)【複数回答可】

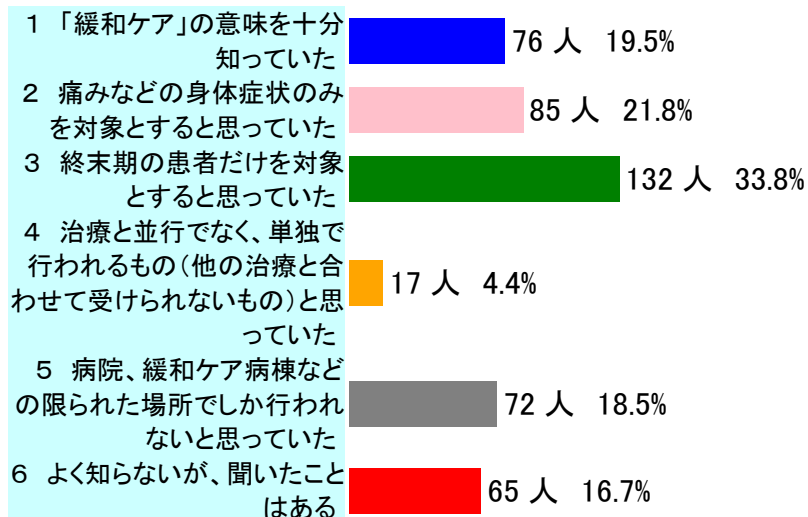


「緩和ケア」等についてお尋ねします。

<緩和ケアとは…>

がんなどの疾患を抱える患者とその家族に対して病院や自宅での療養に際し、疾患の早期から治療を平行し、身体症状の緩和や精神心理的な問題、社会的問題への援助など、療養生活の質の維持向上を図る行為を「緩和ケア」といいます。

(問11)「緩和ケア」について以下から当てはまることにチェックを入れてください【複数回答可】



- 7 知らなかった 75人 19.2%
- 8 分からない 11人 2.8%
- 9 その他 2人 0.5%

(問12)あなたが治る見込みがなく、死期が迫っていると告げられた場合、
どこで療養生活を送りたいですか

- 1 病院 68人 17.4%
- 2 自宅 272人 69.7%
- 3 施設 37人 9.5%
- 4 その他 12人 3.1%

(問13)安心して在宅(自宅)療養するために必要なことは何だと思えますか【複数回答可】

- 1 病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等の連携 240人 61.5%
- 2 病状や治療について、かかりつけ医や訪問看護師が病院と相談できる体制 163人 41.8%
- 3 在宅患者が体調が悪化した場合に緊急入院できる体制 209人 53.6%
- 4 家族が在宅療養に関して必要な情報入手や相談ができる体制 143人 36.7%
- 5 家族が患者を支えるための研修の機会 65人 16.7%
- 6 家族の負担軽減のための短期入院がいつでもできる体制 225人 57.7%
- 7 家族への心身のケア 179人 45.9%
- 8 訪問看護、訪問介護の利用拡大 135人 34.6%
- 9 車いすやベッドなどの福祉用具の充実 106人 27.2%
- 10 その他 11人 2.8%